



ゲートに触れないように、ねらいを定めてボールを投球。

まえさし ニッコリ笑顔でストライク 第4回スマイルボウリング大会

第4回スマイルボウリング大会（NPO法人前沢いきいきスポーツクラブ主催）が1月12日、前沢B&G海洋センターアリーナで開催されました。この競技は、ボールを転がしてゲートを通し、10m先のピンを全て倒すニュースポーツ。5人1組のチーム対抗戦で行われ、合計投球数の少なさを競うというものです。同大会には、6チームで計42人が参加。前沢小6年の三田愛斗君（12）は「ゲートを通しピンを倒すのは難しいけど倒せるとうれしい」と笑顔を見せました。

いさわ 寒さも感じず雪遊びに夢中 わんぱく少年隊「雪と遊ぼう」

小山地区振興会（佐藤英男会長）主催の「わんぱく少年隊」が1月13日、ひめかゆスキー場で行われました。わんぱく少年隊は、さまざまな体験を通して子どもの成長を目指す事業。今回は「雪と遊ぼう」と題し、小学生23人が雪遊びを楽しみました。

子どもたちは一日中、モービルトレインやチューブそりを満喫。胆沢第一小5年の高橋楓雅君（11）は「そりでブレーキをかけたら、雪が顔にかかったけど楽しい」と時を忘れて何度も滑り下っていました。



猛スピードのチューブそり。何度乗っても飽きませんでした



お宝を手にして歓声を上げる参加者

えさし 謎を解いて宝をゲットせよ 第6回お宝探し～えーくんとムカデの大王～

「お宝探し～えーくんとムカデの大王～」が1月10日、えさし藤原の郷で行われました。2月8日まで全3回の初日となったこの日は、親子連れなど74人が参加。小雪が舞う中、地図とヒントを手にお宝を目指して園内を駆け回りました。

両親と参加した盛岡市立向中野小2年の湊敢太君（7）は「謎解きが難しかった。坂を上ったり下ったり疲れたけど、一番欲しかったお宝を取れて良かった」と目を輝かせていました。

こもがわ 家族と一緒に楽しい小正月 障がい者及び家族等地域交流会

障がい者及び家族等地域交流会（NPO法人衣川こぶしの会、衣川手をつなぐ育成会主催）が1月17日、衣川保健福祉センターで行われました。この催しは、区内に住む障がいを持った人とその家族の交流を目的に毎年開催。関係機関・団体の職員なども参加し、約70人で餅つきやミズキ飾りなどを楽しみました。

3年連続で参加した小林朋美さん（18）は「きねが重くて餅つきは大変でした。ミズキには餅を二つ付けました」と笑顔を見せながら話していました。



楽しそうにミズキ飾りに餅を付けます

えさし 厳寒の夜に響く除夜サの声 伊手熊野神社蘇民祭



燃え盛る歳戸木の火の粉と煙を浴びて身を清める

伊手熊野神社蘇民祭が、1月17日夜から翌未明にかけて同神社境内で行われました。400年以上の歴史を持つこの祭りは、厄払いと無病息災、五穀豊穡を祈願し、毎年1月の第3土曜日に行われています。

気温が氷点下5度前後まで冷え込む中、年祝連など約50人の男衆が掛け声とともに登場。「火たき登り」では高さ約3mまで丸太を積み上げた歳戸木に登り氣勢を上げ、伊手の夜を熱く焦がしました。

「別当及び袋登り」「鬼子登り」に続いて行われたクライマックスの「蘇民袋争奪戦」では、怒号と激しいぶつかり合いで堂内は騒然。その年の福が約束される取主となるため、下帯姿の男衆が、凍てつく暗闇をものともせず蘇民袋を奪い合いました。

みずさわ 白銀の校庭を全力で駆ける 第27回黒石親子ジャンボかるた大会

第27回黒石親子ジャンボかるた大会（黒石小学校区子ども会育成会連合会など主催）が1月11日、同校グラウンドで開催されました。参加者自らが作成した「ジャンボかるた」を使って行われるかるた大会に、児童や保護者など約100人が参加しました。

この日は、降り積もった雪と快晴に恵まれ絶好のコンディション。雪にまみれながらも絵札を獲得した同校2年の及川美彩樹さん（8）は「何枚も札を取れてうれしい。来年も出たい」と笑顔を見せました。



絵札に向かって飛び込む！胸のメダルは獲得の証し



前年の厄年連から看板を受け取る菅原委員長（右）

まえさし 厄年連の伝統と誇りを継承 前沢・虎雅兎跳会祭典事務所開き

平成27年奥州前沢42歳厄年連「虎雅兎跳会」（佐々木康広会長、会員165人）の祭典事務所開きが1月10日、前沢区内の同事務所で行われました。来賓として小沢昌記市長が出席したほか、関係者約80人が参列。厳かに神事が行われ、4月に開催される奥州前沢春まつりに向けての安全を祈願しました。

恒例の看板引継ぎでは、菅原淳祭典実行委員長が看板を受け取り「前沢の伝統と歴史を汚すことなく、成功に向けて頑張りたい」と決意表明しました。